

都市再生整備計画事業 モニタリングシート

高山中心地区

平成31年3月

群馬県高山村

様式3 評価結果のまとめ

都道府県名	群馬県		市町村名	高山村		地区名	高山中心地区		面積	193 ha			
交付期間	平成28年度～32年度		事後評価実施予定時期	平成32年度	モニタリング実施時期	平成31年2月		交付対象事業費	479百万円	国費率	0.4		
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施済み、実施中、実施予定の事業		基幹事業	【公園】高山村スポーツ広場整備、【地域生活基盤施設】高山ふれあいパーク、【高次都市施設】(仮称)たかやま観光交流館			事業進捗の状況(順調か、遅れているか)						
			提案事業	事後評価事業			平成29年度には地域生活基盤施設が完成し、平成30年度では、高次都市施設に着手できていることから順調である。						
	当初計画から削除した事業		基幹事業	【公園】高山村スポーツ広場整備		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			提案事業	なし		体育館を含む施設を無償により取得したことにより、これを小規模修繕で再利用することで、施設を新規に建築する必要がなくなった。			影響なし				
	新たに追加した事業		基幹事業	なし									
			提案事業	なし									
	交付期間の変更		当初	平成28年度～32年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
変更			平成 年度 ～ 年度										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		モニタリング		目標	総合所見		今後の対応方針	
				基準年度	目標年度		計測年度		達成見込み				
	指標1	むらの中心地来客数	千人/年	217	H26	300	H32	278	H30	あり ●	高山ふれあいパークの完成により来客数が増加している。	施設の維持・向上を図り、さらなる増加を目指す。	
	指標2	滞在型都市交流者数	人/年	20	H26	300	H32	400	H30	あり ●	高次都市施設が完成しないと効果が現れない。	高次都市施設整備にかかる事業を促進する。	
	指標3	観光ボランティア案内回数	人/年	25	H26	50	H32	58	H30	あり ●	高次都市施設が完成しないと効果が現れない。	高次都市施設整備にかかる事業を促進する。	
	指標4	中心地居住人数	人/年	1,220	H26	1,220	H32	1,220	H30	あり ●	高次都市施設が完成しないと効果が現れない。	高次都市施設整備にかかる事業を促進する。	
指標5									あり ●				
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		モニタリング		目標	総合所見		今後の対応方針	
				基準年度	目標年度		計測年度		達成見込み				
その他の数値指標1				H			H						
4) 定性的な効果発現状況													
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況					今後の対応方針等				
	モニタリング	住民基本台帳等によるモニタリング			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した					● 毎年の統計により確認する。			
	住民参加プロセス	むらの中心地づくりプロジェクト(旧名:高山村道の駅公園等整備計画検討委員会)			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した モニタリング時点では実施していない					● 平成30年度より、ワークショップを実施。今後も継続的に開催。			
	持続的なまちづくり体制の構築	観光交流センターの実施計画案の作成			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した モニタリング時点では実施していない					● 観光交流センターの運営について、村民等との協働を模索する。			
6) モニタリングの所見	総合所見	順調 要改善	●	事業は順調に進んでいる。			今後の事業の改善点						

都市再生整備計画事業 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 効果発現要因の整理

(4) モニタリングの所見

- 添付様式5-① まちの課題の変化
- 添付様式5-② 総合所見・今後の事業の改善点

(5) モニタリング原案の公表

- 添付様式6 モニタリング原案の公表

(6) 有識者からの意見聴取

- 添付様式7 有識者からの意見聴取

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	モニタリング時	当初計画	モニタリング時		
農業体験事業		高山村中山地区	2	2	平成28～32年度	平成28～32年度	事業実施中	
景観条例見直し事業(規制強化)			0	0	平成28～28年度	平成28～28年度	計画通りに実施	
新田宿活性化事業		旧三国街道新田宿	2	2	平成28～32年度	平成28～32年度	事業実施中	
花いっぱい推進事業			12	12	平成28～32年度	平成28～32年度	事業実施中	
観光PR促進事業			5	5	平成28～32年度	平成28～32年度	事業実施中	
宿泊施設整備事業		高山村中山地区	313	313	平成30～32年度	平成30～32年度	事業実施中	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と モニタリング値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		モニタリング (エ)		現段階での 目標達成 見込み		総合所見	今後の方針
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	実施 年度	実施 年度	あり	なし				
指標1	むらの中心地来客数	千人/年	観光施設利用客数(地域振興課統計数値)	—	—	217	H26	300	H32	278	H30	●	高山ふれあいパークの完成により来客数が増加している。	施設の維持・向上を図り、さらなる増加を目指す。
指標2	滞在型都市交流者数	人/年	農村体験及び合宿(スポーツ、音楽等)等利用数(地域振興課統計数値)	—	—	20	H26	300	H32	400	H30	●	高次都市施設が完成しないと効果が現われない。	高次都市施設整備にかかる事業を促進する。
指標3	観光ボランティア案内回数	回/年	観光ボランティアガイドの実働回数(地域振興課統計数値)	—	—	25	H26	50	H32	58	H30	●	高次都市施設が完成しないと効果が現われない。	高次都市施設整備にかかる事業を促進する。
指標4	中心地居住人数	人/年	中心地に居住している人数(住民基本台帳数値)	—	—	1,220	H26	1,220	H32	1,220	H30	●	高次都市施設が完成しないと効果が現われない。	高次都市施設整備にかかる事業を促進する。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と モニタリング値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		モニタリング (エ)		本指標を取り 上げる理由	総合所見	今後の方針
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	実施 年度	実施 年度					
その他の数値指標1													
その他の数値指標2													
その他の数値指標3													

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

--

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の方針等
住民基本台帳等によるモニタリング	予定どおり実施した ●	【実施頻度】毎年度1回 【実施時期】毎年度12月 【実施結果】高山中心地区の人口の推移を確認することができた。	毎年度の統計により確認する。
	予定はなかったが実施した		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の方針等
「むらの中心地づくり」プロジェクト (旧名称:高山村道の駅公園等整備計画検討委員会)	予定どおり実施した ●	【実施頻度】毎年度3～5回程度 【実施時期】平成29年度から 【実施結果】村の中心地にともなう高山ふれあいパーク、観光交流館等の整備方針等を住民から意見聴取し、整備への合意形成を図る。その後「むらの中心地づくり」を具体化するため	平成30年度より、ワークショップを実施。今後も継続的に開催。
	予定はなかったが実施した		
	モニタリング時点では実施していない		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
観光交流センターの実施計画案の作成	予定どおり実施した ●	未定	未定	観光交流センターの運営について、村民等との協働を模索する。
	予定はなかったが実施した			
	モニタリング時点では実施していない			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
—	—	—	—

添付様式4-② 効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3	指標4
指標名		むらの中心地来客数	滞在型都市交流者数	観光ボランティア案内回数	中心地居住人数
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
	地域生活基盤施設	○	高山ふれあいパークの完成により来客数が増加しており、来客者が道の駅を利用している。	-	事業中であるため、評価できない。
	高次都市施設	-		-	
	事後評価調査	-		-	
	農業体験事業	-		-	
	景観条例見直し事業(規制強化)	-		-	
	新田宿活性化事業	-		-	
	花いっぱい推進事業	○		-	
	観光PR促進事業	○	-	-	事業中であるため、評価できない。
	宿泊施設整備事業	-	-	-	
		-	-	-	

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献している。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献している。
- △ : 完成直後又は事業開始直後のため、効果の発揮に至っていない。
- × : 事業が完成したが、期待通りの効果を発揮していない。
- : 評価できない。
 { 未着手又は事業中のため評価できない、
 事業と指標とに関係がないので評価できない }

今後の方針等	地域生活基盤施設のほか、現在整備中の高次都市施設及び関連事業となる農業体験事業と宿泊施設整備事業との相乗効果により来客数の増加を図る。	滞在型都市交流者数の増加を図るため、観光交流館の建設を推進する。	滞在型都市交流者数の増加を図るため、観光交流館の建設を推進する。	中心地づくりを推進し、活性化させることで、人口の流出を抑制する。
--------	---	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------

(4)モニタリングの所見

添付様式5-① まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	モニタリングの時点で達成されたこと (課題の改善状況)	交付期間中に解決すべき 残された課題	交付期間中に発生した 新たな課題
既存インフラ、ストックを有効に活用 した効率的なむらづくりが必要。	事業中	・(仮称)たかやま観光交流館を交付期間中に確実に完 成、供用させる。	—
農業体験や合宿(スポーツ、音楽 等)等に対して活動しやすい拠点整 備が必要。	事業中	・(仮称)たかやま観光交流館を交付期間中に確実に完 成、供用させる。	
子どもから高齢者の憩いの空間とな るような緑地広場が必要。	・高山ふれあいパークが整備された	—	

添付様式5-② 総合所見・今後の事業の改善点

総合所見		今後の事業の改善点	
		具体的項目	内容
順調	●	—	
計画・事業の進め方の 改善が必要		事業の進め方の工夫	—
・事業は順調に進んでいる。		都市再生整備計画 の見直しの必要性	—
			—

(5) モニタリング原案の公表

添付様式6 モニタリング原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	村のホームページに掲載	平成31年5月1日～	平成31年5月1日～5月31日	担当課への 電話、FAX、電子メール	地域振興課
広報掲載・回覧・個別配布	広報に村のホームページで原案を公表している旨を掲載	平成31年5月1日発行 広報5月号	平成31年5月1日～5月31日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	—	—	—		

住民の意見	—				
-------	---	--	--	--	--

(6) 有識者からの意見聴取

添付様式7 有識者からの意見聴取

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
<p style="text-align: center;">小島 敏明 慶應義塾大学 政策・メディア研究科 特任教授</p>	<p style="text-align: center;">平成30年7月～平成31年2月</p>	<p style="text-align: center;">地域振興課</p>

<p>有識者の意見</p>	<p>■ 移住定住促進事業からむらを愛する支援者の育成</p> <p>■ リーディングプロジェクトの提案内容における5つの評価軸</p> <p>① 妥当性…「むらの中心地づくり基本計画」の目的との整合性がとれているか。</p> <p>② 適時性…日本のおかれている社会・経済情勢と高山村のおかれている環境に対応している提案となっているか。 高山村の社会課題を解決する内容となっているか。</p> <p>③ 地域性…高山村の「強み」を活かしているか。周辺地域との違いは明らかになっているか。</p> <p>④ 実現性…高山村に住む人材、組織、地域資源、ノウハウ、外部ネットワーク等を活用することで実現できる内容か。</p> <p>⑤ 収益性…提案の事業内容は儲かるものか。赤字になったらどうするのか。持続性はあるか。リスクはあるか。</p>
---------------	---